

中国の財輸出入の動向

<ポイント>

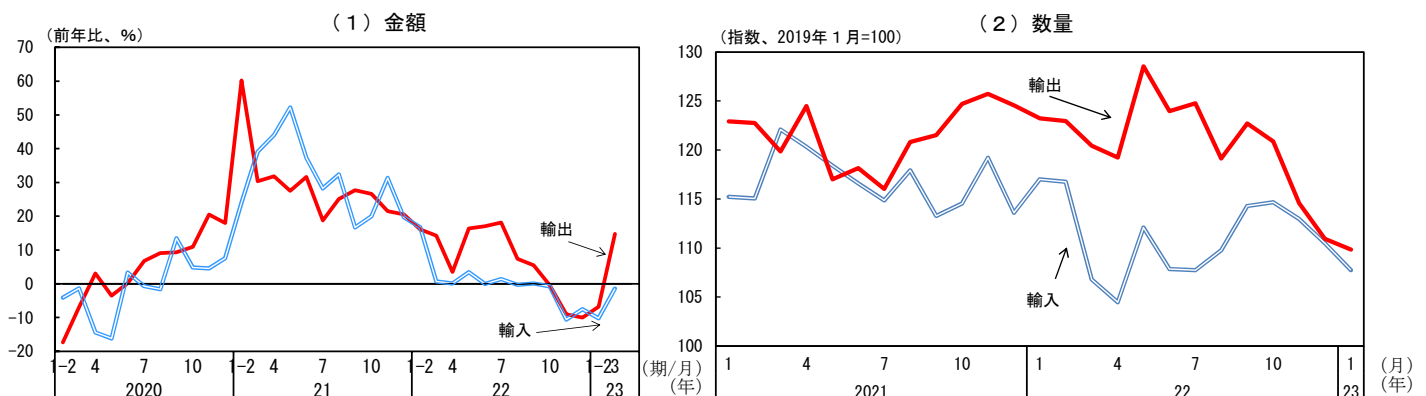
1. 中国の最近の財輸出动向をみると、金額ベース（ドル表示）では2022年8月から前年比が低下し、10月にマイナス転換して以降、23年1-2月まで減少が続いていたが、3月にプラス転換した（図1（1））。輸出を加工貿易（外国から輸入した原材料・部品を国内で加工して再輸出するもの¹）と一般貿易（加工貿易以外の通常の貿易）に分けて推移をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため主要都市でロックダウンが実施された22年4月には、外国とのサプライチェーンにおける混乱を受け加工貿易の寄与はゼロ近傍まで縮小した。他方、全体の約6割を占める一般貿易はその影響が軽微であったことから5.8ポイントのプラス寄与を維持していた（図2（1））。しかしながら8月からは徐々に一般貿易も縮小し、11月以降はマイナス寄与となった。23年3月は一般貿易が大幅なプラスとなったが、国外から中国企業への委託に左右される加工貿易は引き続きマイナス寄与となっている。数量ベースでも、輸入と比べて堅調に推移していた輸出は年末にかけて減速しており、23年の年初も減少が続いている（図1（2））。
2. ここで22年下半年以降の輸出の減少を同年4月と比較すると、工場の稼働率低下や物流の混乱の輸出に対する影響は相対的に小さく、世界経済の減速を受けた外需の減退が主な押下げ要因となっているとみられる。製造業の稼働率をみると、ロックダウンの時期と重なる4-6月は国内の生産活動の制約もあり顕著に低下したのに対し、7-9月期以降はロックダウン直前の水準まで回復し、横ばい基調で推移している（図3）。感染者が11月に急増したことで一部生産活動の混乱はみられたが、同月以降に防疫措置の緩和²が実施されたこともあり、稼働率低下の影響はロックダウンの時期より限定的だったとみられる。また、物流の状況について製造業購買担当者指数（PMI）をみると、サプライヤー納期指数は4月に最も悪化しており、輸出の減少がみられた23年初頭については景況感の改善・悪化の判断の境目である50を上回るなど回復をみせている（図4）。一方、輸出の先行指標である新規輸出受注については、22年下半年は、50ポイントを継続的に下回るなど、外需は軟調となっていた（図4）。
3. 輸出动向を品目別にみると、ロックダウンが実施された22年4月には幅広い品目で輸出額の伸び率の低下がみられた。衣類・服飾品や集積回路等は、ロックダウン解除後に速やかに回復した。その後、世界経済の減速、特に半導体需要の減速等がみられる中で、年末年始にかけて感染再拡大に伴う生産活動の抑制も加わり、集積回路等は低調に推移しているが、衣類・服飾品は23年3月にプラス転換した（図5）。自動データ処理機械・ユニット（パソコン等）は、世界的な巣籠もり需要の一巡もあり、ロックダウン解除後の回復もわずかに留まり、8月以降は一段とマイナス幅が拡大した。国・地域別では、上記のような経済環境の中、全体に占めるシェアが大きいアメリカやEU向けの輸出額が低調に推移している一方、ASEAN向けは高い伸びで推移している（図6）。

¹ 国外企業から中国の生産企業に委託（原材料の輸入とその加工品の輸出をセットにした貿易取引契約）がある場合を指す。原材料の輸入時に関税や増値税等の免税措置の対象となる。

² 中国国務院は22年11月、「防疫措置を最適化する20条の措置」を発表。封鎖対象地域を限定し、濃厚接触者の隔離期間を短縮したことで、全市レベルのロックダウンは実施されないこととなった。同年12月には無症状感染者や濃厚接触者の自宅隔離を可能とし、非高リスク地域での休業措置や人流制限を撤廃するなど更に緩和し、23年1月には感染症分類を引き下げ、事実上ゼロコロナ政策を撤廃した。詳細は「世界経済の潮流2022年II」を参照。

4. 財輸入金額の動向をみると、22年3月から弱い動きが続いていたが、内需の減少等を受けて、同年11月から23年1-2月にかけて減少傾向が顕著になっていった。しかしながら、同年3月はマイナス幅が縮小している。輸入を再輸出用の加工貿易と国内消費用の一般貿易で分けると、一般貿易（資源を除く）はロックダウンが実施された22年4月にマイナス寄与となり、その後は一時的に回復したものの10月に再びマイナス寄与となった（図2（2））。輸入全体の2割を占める資源については、原油等資源価格の高騰と下落を背景に22年上半期のプラス寄与が同年下半期には縮小した。また、年末には外需に連動する加工輸入のマイナス寄与も上半期と比べ顕著になっており、再輸出用の生産活動も縮小していると考えられる。23年3月については、一般貿易及び資源はわずかにプラス転換した一方で、加工輸入は引き続きマイナスとなった。
5. 輸入動向を品目別にみると、輸入総額の15.3%（22年）を占める電子集積回路の輸入額は22年4月までは堅調に推移していたが、それ以降はマイナスで推移し、年末にかけてマイナス幅が拡大した（図7）。なお、電子集積回路を含む半導体³は世界的に需要が減速する中で価格は下落傾向がみられるが、電子集積回路の輸入を数量でも前年比2ケタ台のマイナスが続いている。
6. なお、こうした輸入減少には、構造的な要因もあるとみられる。原材料や部品などの中間財は、かつては国外に依存していたが、近年は中間財から最終財までを国内で生産する内製化が進んでいることから、輸出品の生産にあたっての輸入財への依存が低下するといった構造的な変化が示唆されている。加工貿易と一般貿易に分けた輸入の推移をみると、2005年に41.5%だった加工貿易の比率は22年には16.9%と著しく低下している（図8）。また、中国において輸出に占める国内で生産された付加価値の比率は年々高まっており、このことから内製化が進んでいることがうかがえる⁴。
7. このように、22年下半期の感染再拡大以降の中国の輸出入金額の減少は、感染再拡大に伴う生産活動の抑制に加え、内外の需要減速、資源価格の下落、半導体需要の減速など複合的な要因が影響しているとみられる。23年3月には輸出の前年比がプラス転換したものの、このように下押し圧力が残る状況下では今後の動向については不確実性が高いものと考えられる。中国の輸出入は、同国への貿易依存度の高いアジア諸国の経済への影響も大きいことから、上記の各要因の動向を今後も注視する必要がある。

図1：財輸出入

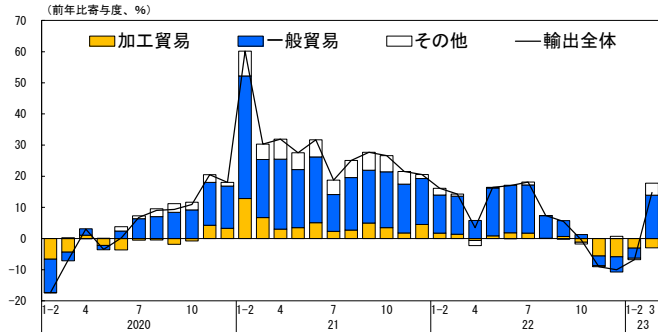


³ UN Comtrade によると中国の半導体（HS8541 及び HS8542）輸入元の国・地域別シェアは、台湾 34.2%、韓国が 19.2%、日本が 5.8%と全体の約 6 割を占める。

⁴ 詳細は三浦（2023）を参照。中国の国内付加価値率は 2004 年以降上昇傾向にあり、2018 年には 82.8%と先進国並みとなっている。

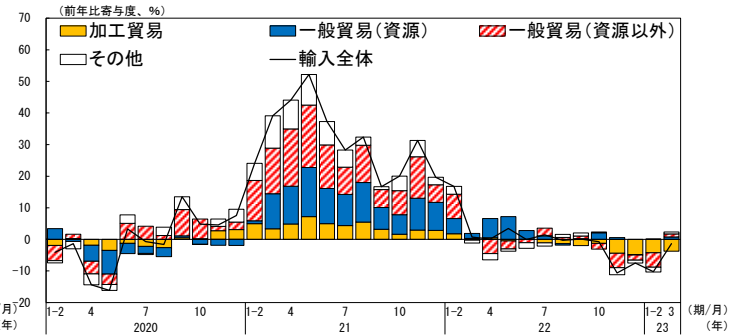
図2：財輸出入の内訳

(1) 輸出 (財別・金額)



輸出	加工貿易	一般貿易	その他
2022年ウェイト	22.5	63.8	13.6

(2) 輸入 (財別・金額)



輸入	加工貿易	一般貿易(右資源以外)	一般貿易(資源)	その他
2022年ウェイト	16.9	40.1	23.6	19.4

図3：設備稼働率

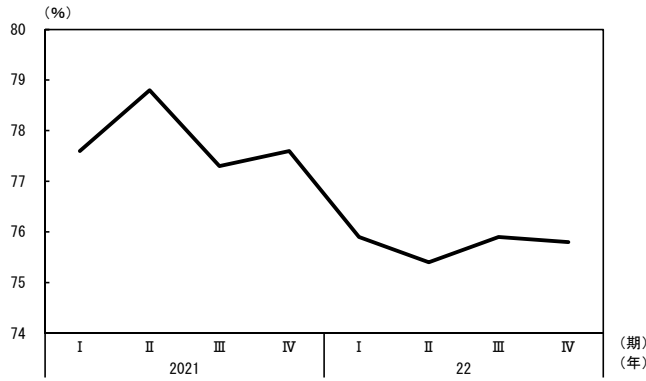


図4：新規輸出受注

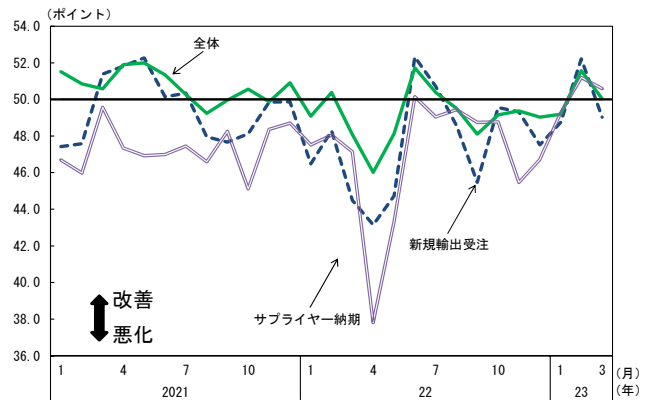


図5：輸出 (個別品目、金額)

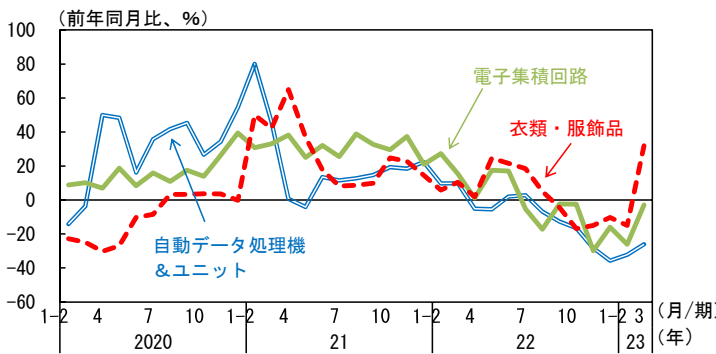


図6：輸出 (国別、金額)

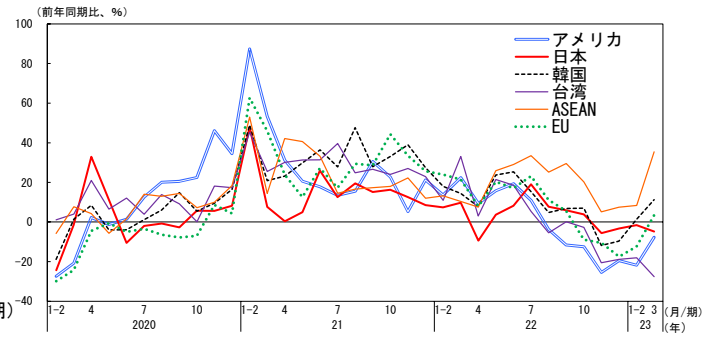


図7：輸入（個別品目、金額）

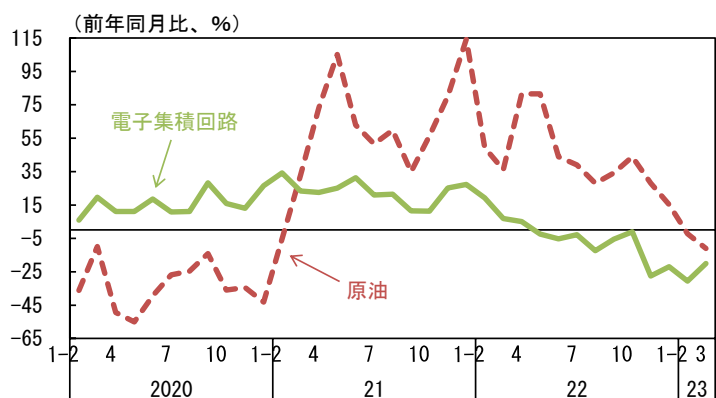
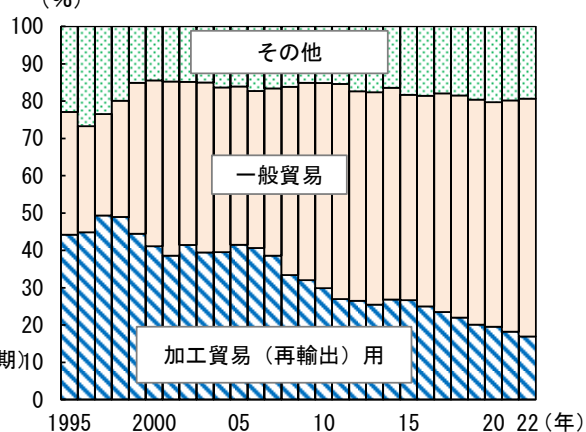


図8：輸入構造の変化（金額）



参考文献

内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2023）「世界経済の潮流 2022 年Ⅱ」

三浦有史（2023）『脱「中国依存」は可能か』中公選書

- （備考）1. 図1（1）、図2、図5、図6、図7、図8は中国海関総署より作成。名目値。月別の1～2月は累計値を使用。一般貿易（資源）には、鉄鉱石・銅・原油・石炭等が含まれる。
 2. 図1（2）はオランダ経済分析総局より作成。季節調整値。
 3. 図3は中国国家統計局より作成。
 4. 図4は財新/S&Pグローバルより作成。季節調整値。

担当：内閣府 政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付
 本田 真理子（直通 03-6257-1582）

本レポートの内容や意見は執筆者個人のものであり、必ずしも内閣府の見解を示すものではない。